

## 第3回検討委員会の振り返り

| 連番  | 項目                                   | 発言者       | 質問・意見  | 回答   | 対応   |                         |
|---|--------------------------------------|-----------|--|--|--|-------------------------|
| <b>議事2(2)アンケート結果の報告、課題整理について (資料2)</b>        |                                      |           |  |  |  |                         |
| 1   | 資料2：和泉市健康づくり・食育推進に関するアンケート調査結果報告書(案) | 内藤委員長     | ・アンケートから、今後施策を重点的に行う対象が浮かび上がってくれば有意義である。<br>・アンケートの各取りまとめから、総括した結論的な課題がまとめられると良い。  |  | ・アンケート調査結果報告書において、総括した考察を記載した。   |                         |
| 2   |                                      | 永田委員      | ・P84の図表155についてどのように結果を見るとよいか分かりにくい。  | ・データの見方は縦軸が幸せかどうかを判断する際に重視する項目、横軸が健康状態になっている。<br>・データの解釈としては、クロス集計としての限界があり、関連性があるということをお示ししている。但し因果関係を示すものではない。 |  |                         |
| 3   |                                      | 内藤委員長     | ・アンケート結果から関連性は見えるが、因果関係までは述べることが難しいため、一般的に根拠のあるもので、関連性がはっきりと示せるもののみ掲載する方がよい。   |  | ・計画書に掲載しているアンケート結果は関連性のあるものを掲載している。  |                         |
| 4   |                                      | 藤原委員      | ・小中学生に対してどのように結果を返すのか。結果をたくさん示しても市民は見ないため、どの項目を分かりやすく伝えるのか、表記するのかが今後の検討内容になるか。<br>・教育という面でも有効活用できると考える。  | ・どのようにフィードバックするかは庁内の関係課と調整する。  | 小中学生のアンケート調査結果について、担当課へアンケート調査結果報告書及びデータを提供し今後の取り組みに活用いただくよう調整を行った。  |                         |
| <b>議事2(3)第4次健康都市いずみ21・食育推進計画(案)について (資料3)</b> |                                      |           |  |  |  |                         |
| 5   | ①第1章～5章                              | 永田委員      | ・第5章の基本的な考え方の基本理念の部分は、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態、ではなく、健康な状態という定義が正しい。<br>・P70～71のロジックモデルの並び順について一般的ではないと感じる。<br>・不幸と感じている人がどのような要素で不幸と感じているのか、健康ではないと感じている人も同様に気になる。<br>・P71の初期アウトカムについて、睡眠時間が長いほど健康に良いわけではないため、質・量ともに「十分」な睡眠ではなく、「適切な」とした方がよい。  | ・健康状態が「よくない」と回答したのは25件と少ないため、要因分析は難しい。「よい」の回答のサンプル数がまとまって多いため、こちらで傾向を見ていただきたい。                                   | ・施策体系としての見やすさを重視し、矢印ではなく線でつなぐ形に修正した。<br>・因果関係を示すものではないがより詳細をみると、「どちらか」というと幸せではない～全く幸せではない」と回答した人について、「幸せかどうかを判断する際に重視した項目別」をみると、「精神的なゆとり」「家計の状況」が全体より高い(アンケート調査結果報告書P101)。<br>「主観的健康観があまりよくない～よくない」と回答した人の生活習慣をみると、「歩行時間30分未満(同P85)、主食・主菜・副菜を3つそろえた食事を毎日ほとんど食べない(同P86)、その都度ストレス解消できていない(P91)、十分な睡眠がとれていない(P91)」などが全体より高い。<br>・睡眠・こころの健康について、「適切な」に表現を修正した。 |                         |
| 6   |                                      | 内藤委員長     | ・ウェルビーイングの定義は難しい。健康とは、身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな状態と定義される場合もあるため、市民が読んでも分かりやすいように表現を工夫いただきたい。<br>・アンケート調査結果は偏りがある可能性があるため、アンケート結果のみで結果を言い切ったり、施策を検討したりしないほうがよい。世の中で一般的に言われているデータの確認として使用する程度がよい。   |  | ・ウェルビーイングの表現について、伝わりやすいよう補足をを行った。<br>・アンケート結果の取り扱いについて、ご意見の考え方を踏まえ作成する。  |                         |
| 7   |                                      | 早崎委員      | ・P49の野菜摂取のデータについて、3食とも食べていないという意味か。毎食全ては食べていないという意味か。<br>・P65ブックマークが定義されていないとなっている。  |  | ・3食(毎食)と追記した。<br>・ブックマークエラーについて修正した。   |                         |
| 8   |                                      | 沖田委員      | ・P30、31の学年表記は揃えた方がいい。<br>・P34(ha)のかが片方消えている。<br>・P35ヘルスアップサポーターの活動の場について、減った理由はコロナが背景にあると考える。読み手に伝わるよう追記いただきたい。<br>・P54(11)について、健康に基づくようなクロス集計がないため、「地域や地域資源との関わり」のように見出しを変えた方がいい。<br>・P58図の文字が重なっている。<br>・P85の図の一部文字が消えている。   | ・P54,55について、地域における活動状況と健康状態、幸福度についてクロス集計をとり、結果を確認する。それが基本方針3につながるかと考え、見出しはそのままとしたい。                              | ・P30～31 学年表記について統一した。<br>・P35 コロナによる影響について追記した。<br>・P34、58、85 図表を修正した。<br>・P58、59地域における活動状況と健康状態、幸福度についてのクロス集計結果を追記した。   |                         |
| 9   |                                      | 内藤委員長     | ・健康状態は環境に左右されることが分かってきているが、それぞれが個々で考える健康づくりと、行政が考える健康づくりを上手くマッチさせて検討できるとよい。  |  | ・第6章の行政の取組と、第7章の個人個人の取組の方向性が一致するよう検討する。  |                         |
| 10  |                                      | 早崎委員      | ・P31の痩身傾向児のグラフは単年度になっているため、経年のデータがあるとうい。   | ・経年データは収集が難しい。   |  |                         |
| 11  |                                      | 井上委員      | ・第4章(4)健康チェック：検診、がん検診で「なんとなく受けていない」「面倒」と答えた方を検診に向かわせるにはどうすればいいかについて、健康に関する情報の入手が64歳まではインターネットが高いことから検診推奨やクーポンの対象年齢、申請などについて定期的に効果的な時期を考慮して和泉市公式LINEなどでの周知もよいのではないかと。また、受診可能施設や受診方法もLINEから直接リンクして見られると良いのではと思う。<br>・(6)喫煙：「以前は吸っていたがやめた」が全体の約4分の1あり、高齢者は疾患などが原因かと思うが、それ以外の年代でのやめた理由、若い年代で喫煙を始めたきっかけなどについてわかれば今後禁煙を勧めていく上で参考になるかと思う。<br>・(8)地域における健康づくり：この会議に参加するまでヘルスアップサポーターの活動を知らなかった。参加するための時間の制約等はあると思うが、入り口としてサポーター以外の人が誰でも参加できるウォーキングや人数に制限のないイベントを増やしていくのも良いのではないかと。<br>(事前に人数把握できないと運営が難しいかと思いますが、予約制や事前申し込み制は参加に躊躇してしまうので) |  | ・市民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援するための情報提供のあり方について検討していくことを追記した。また、具体的な取り組みに関するご意見について、関係課とも共有し、取り組みへの反映を検討する。<br>・今回のアンケート調査では、高齢者以外の年代において喫煙や禁煙に至った理由の把握はしていないが、若年者の喫煙行動の形成に、個人の知識や態度だけではなく、家族や友人などの周囲の人の喫煙状況やたばこの入手しやすさなども関連していることから、ライフコースに応じたたばこ対策をすすめていく。  |                         |
| 12  |                                      | スローガンについて | 永田委員   | ・ウェルビーイングについて知らない人からすると、「実現する」という表現は伝わりにくいのではないかと。   | ・ウェルビーイングの専門的な議論の中では、実現や満足といったような表現は使用しない。専門家の中では、最大化や追求するという表現を使用されるため、ウェルビーイングと実現するという言葉に親和性がない。本日の意見を踏まえ、基本理念のウェルビーイングの書きぶりが変わるため、まずそれを示した上で、スローガン(案)について次回会議で決定いただきたい。   | ・スローガン案を修正し、次回委員会で提示する。 |
| 13  |                                      |           | 内藤委員長  | ・「実現する」の動詞を変えるのはどうか。   |  |                         |
| 14  |                                      |           | 永田委員   | ・「めざす」などはどうか。  |  |                         |
| 15  | 田中委員                                 |           | ・「市民」は必要か。一人ひとりを強調するのであれば、「市民」は無くてもいいと考える。   |  |  |                         |
| 16  | ③第7章 市民の地域・団体が主体的に取り組む健康づくり・食育推進     | 沖田委員      | ・P81のライフステージのカテゴリーについて、高齢期がとても長いことは気になる。医療のように、前期・後期で分けてそれぞれの特徴や取組について記載してもらえるとよい。   |  | ・第7章高齢期について、分けられる部分は前期・後期で分けて記載した。   |                         |
| 17  |                                      | 内藤委員長     | ・人生100年時代であるため、65歳以上をひとくくりは難しい。計画は12年続くため、可能であれば高齢期は分けたほうがよい。  |  |  |                         |
| 18  |                                      | 橋本委員      | ・第7章の団体とは、具体的にどのような団体を想定されているか。  | ・関係機関や自治組織、民間団体を想定している。学校や保健所、三師会など、検討委員会に参加いただいている委員の皆さんが所属されている各団体も想定している。                                     | ・第7章へ地域・団体の説明を記載した。  |                         |

|    |                     |       |  |   |  |
|----|---------------------|-------|--|---|--|
| 19 |                     | 内藤委員長 | <p>・推進体制について、毎年チェックを行うのはいいが、具体的にどのように確認を行うかはある程度決められているのか。</p>   | <p>・第6章で行政が取り組む施策を記載予定であるが、行政の取組については1年ごとの達成度を評価するための指標を立てる予定をしており、進捗管理できる仕組みを考えている。</p>            |  |
| 20 | ④第8章 計画推進体制・計画のPDCA | 内藤委員長 | <p>・コロナなど、危機的な状況が起こった際にどのような対応をとるのか、別のシナリオを作っておく必要があると考えるが、どのように考えられているか。PDCAサイクルは長期的な状況の変化には適しているが、危機的な状況への対応は弱い点もある。危機対応について検討しておく必要がある。</p>   | <p>・日常的な生活を脅かす災害等が起こった際の対応については、市の防災計画において、健康を含めた対応について明記されているため、そのような計画について計画内で言及するのが良いと考えている。</p> | <p>非常時の対応については市の防災計画等に示されており、本計画書においては、第8章へ社会環境等の変化に合わせ臨機応変に対応することができるよう計画の進行管理を行って行くことを記載した。</p>  |
|    |                     |       |  |   |  |
| 21 | 副市長挨拶               | 副市長   | <p>①アンケート調査結果報告書P84の表の意味についてご質問いただいたが、帯グラフの形でX軸に健康度を入れる形に変えた方が分かりやすいと考える。<br/>         ②策定方針について和泉市独自の考えが記載されていないので、記載したい。<br/>         ③アンケート結果の返し方について、最初から検討できていなかったため、アンケート結果の還元はお約束させていただき、返し方について検討させていただく。<br/>         ④不健康や不幸な人について回答者が少ないため要因分析は難しいが、一度検討してみる。また、和泉市の特徴として利点にしか着目しないが、マイナス面についても分析が必要と考える。ウェルビーイングを最大化していくためには、何が課題になっているのか分析が必要である。ある程度はウェルビーイングが深まるが、それ以上は難しく、美点凝視のみのマネジメントの限界であると考えている。今後はマイナス面についてもしっかり課題設定をし、心がけていきたい。<br/>         ⑤社会環境と地域活動とウェルビーイングの関係については、極めて重要な問題であるが、アンケート結果のみでは分析が難しいため、色々な研究結果も踏まえて検討する。<br/>         ⑥データの取り扱いについて、関連性なのか、因果関係なのか、参考値なのか意味付けをしっかりと記載する。<br/>         ⑦アンケート報告書で、図表のすぐ下に行政としての分析を記入することを心がけたい。<br/>         ⑧ケアレスミスについてもご指摘いただいたが、反省し、緊張感をもって取り組みたい。<br/>         ⑨推進体制とタイミングについても今朝打ち合わせをしており、具体的な内容について検討できていなかったため、毎年の振り返り等について検討したい。<br/>         ⑩地域・団体の定義についても、曖昧なためしっかりと定義したい。<br/>         ⑪女性の保護、健康について、市の重点的な取組としていきたいと考えており、行政としての公助のあり方を検討したい。女性の方々が自らの意思で元気に生活するためにサポートしていけるような、皆で支えていく施策が少ないため、具体的な施策を力を入れて書いていきたい。</p> |   | <p>①⑦アンケート調査結果報告書について、集計結果からの分析・考察から捉えた本市の課題は、計画書の第4章に含まれている。総括した結論的な課題のまとめや、表と考察のわかりやすい記載、表の項目設定（軸）などの工夫、データの意味付けの整理が必要と認識しているが、時間的制約があることから、修正を反映した報告書は、第5回委員会に提出予定とする。<br/>         ⑥計画書に掲載している集計結果について、関連性、因果関係、参考値なのかを整理し掲載した。<br/>         ②策定方針に、ウェルビーイングの向上を含んだ健康づくり計画を策定する考えを記載した。<br/>         ③上記No.4参照。<br/>         ④⑤⑨上記No.5参照。推進体制において毎年の評価を行い、マイナス面についても課題を把握し翌年の取り組みへつなげていく。また、社会情勢等の変化や参考となる研究結果等も踏まえた検討を行っていく。<br/>         ⑩上記No.18参照<br/>         ⑪第6章「基本方針4 女性特有の健康課題解決」に記載し、庁内連絡会議において毎年の評価・取り組みへの反映を行っていく。</p> |